

朝日自然塾 1

新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう

朝日自然塾第1回プログラム「新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう」は、5月19日、曇りのち晴れのすがすがしい天気の中、新緑のブナ林で、山形市・長井市・新潟県村上市内の小学生親子18名が参加して開催しました。

開会では、「日本一の広さ（約7万ヘクタール）がある「朝日山地森林生態系保護地域」は、貴重な動植物の保護を図り、生態系や遺伝資源を後生に継承するため設定・管理しています。イベントを通じて森林生態系の大切さを理解していただき、皆さんとともにこの森林生態系を守る活動が広がっていくことを望みます。」との所長の挨拶の後、早速プログラムを開始しました。



今回は、この冬の大雪により吊り橋が損傷したため、針生平を中心としたコースに変更し、プログラムの内容は、

- ①動物たちのめざめ（足跡、糞で動物を見分ける）
- ②マタギの話
- ③森の不思議発見（春の花等）
- ④山のルールとマナー
- ⑤新緑の白布平の「ごつつっおう」
- ⑥樹高の測定と自然を題材としたカードゲーム

など盛りだくさんの内容で時間を忘れるほどでした。





ムラサキヤシオやイワウチワなど美しい花が咲いているやわらかい緑に包まれたブナ林では、講師の説明を真剣に耳を傾け、雪上で見つけたうさぎの糞を覚えた子供たちは、あちこちで見つけては大きな歓声をあげていました。また、ブナの倒木では「ワカイ」を見つけて、はじめて見る本物のキノコに、取り方を教えてもらい。ニコニコしながらいねいに山の幸を収穫していました。このほかにも、ブナのたくさんの実生を発見して驚いたり、ネバネバしたトチノキの新芽に触れたり、山菜のコシアブラを発見したりといういろいろな体験の中で、参加者の皆さんは豊かな自然を身近に感じていました。

昼食は、朝に自分でさばいたイワナもスタッフがていねいに塩焼きにしたり、取り立ての山菜の天ぷらのほか、参加者が自ら収穫した山菜などを使い炭火で焼いた「ワイルド焼き」などの「ごっつっおう」を作りました。一部焦げた料理もありましたが、それぞれ味付けを工夫した料理が並び披露をした後、みんなで美味しいイワナや山菜・きのこをいただきました。



「新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう」は、「小国の自然を守る会」や「山形県猟友会小国支部」、置賜森林管理署の流域管理調整官や船渡森林事務所の皆さんから講師やスタッフ等としてご協力いただき、豊かな動植物を育むブナの森で楽しく貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

